

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(036号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年02月26日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年02月26日
Bar RyN	2004年02月26日
買い物百般	2004年02月26日
エクスカーション	2004年02月26日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

身辺雑記

「セイス・セマーナス・マス」の巻 2004年2月26日 更新
最初にお断りしておきますが、次週3月4日と次々週3月11日は二週連続で休刊と
させていただきます。次のアクセスは3月19日までお待ち下さい。

さて、タルヘタ=居住許可証については何回もお話してきましたが、少し進展がありました。今週初め、指定された例のマス・オ・メノス(大体)三ヶ月あと、という日にちよりは一週間早かったのですが、待ちきれない気持でとにかく一遍のぞいて見ようと隣町の国家警察分署へ行ってきました。

受付カウンターのオバさんは初めは難しい顔でコンピューターのディスプレイを覗んでいましたが、どうやら私達の書面が見つかったようで、指紋押捺用書類を作り始めました。書類審査はもう終わっていたようです。やれやれこれで一步前進です。

三ヶ月後、と言った別のオバさんは隣のカウンターにいましたが、大体ヨ、ダイタイと念を押されたにとしては、一週間も早く出来ていたことは上出来です。

多分、私達が申請書を出した12月という時期が悪かったんでしょうね。国中がクリスマス・正月に向けて浮き立っている時ですから、そんなときに来年の事なんか確約デキルカ、というのが正直なところなのでしょう。

まあ、とにかく指紋押捺の書類もすぐ出来て、夫々右手人差し指をムンズとつかまれて書類に押し付け、サインをして終わり。係りのオバさんは私達の漢字のサインを見て一瞬グイッと長い眉を上げましたが、特に何も言わず、タルヘタの引換券と指定銀行で支払う手数料納付書をくれて、今度は、セイス・セマーナス・マス、アト六週間ヨ、ロクシュウカン、です。ほんとかなー。

これがまたあてにならない話で、タルヘタの引換券の裏には、この書類の有効期限は45日と明記してあるにもかかわらず、去年はその期間内にタルヘタが出来てこず、有効期限のことを指摘すると、イイノイイノ気ニシナイデ、と言われちゃいました。

そんな事言っただって気になるよネー、普通は・・・。

BANCO BRUA

CENTRO GESTOR
Dirección General
de la Policía

TASA INDEPENDIENTE
ADMINISTRATIVA Y ECONÓMICA
CÓDIGO 015 **790**

Número
790012216533-6

790012216533-6

FECHA: 27-01-2014 NOMBRE: HAYASHI KEIICHI

PAIS: JAPON DISTRITO DE ORIGIN: DE

SEGURO: SEGURO HABITACIONAL MOTIVO: REINGRESO

1) TARJETA DE RESIDENTE COMUNITARIO	<input type="checkbox"/>	— Fijas	<input type="checkbox"/>
2) TARJETA DE ESTUDIANTE	<input type="checkbox"/>	— 1 año	<input type="checkbox"/>
3) PERMISOS DE ESTANCIA	<input type="checkbox"/>	— 2 años	<input type="checkbox"/>
4) AUTORIZACIÓN DE RESIDENCIA	<input checked="" type="checkbox"/>	— Horizontal	<input type="checkbox"/>
— Sin tasa de reciprocidad	<input checked="" type="checkbox"/>	— Mixta	<input type="checkbox"/>
— Con tasa de reciprocidad	<input type="checkbox"/>	— Primera residencia	<input type="checkbox"/>
— Chile	<input type="checkbox"/>	— Positiva a otros países	<input type="checkbox"/>
— El Salvador	<input type="checkbox"/>	— Palencia	<input type="checkbox"/>
— EEUU	<input type="checkbox"/>	— País	<input type="checkbox"/>
		— SAin	<input type="checkbox"/>

Lote: 6/2004 Nº: 045 Equipo Nº: 288666A

Mando General de la Policía
Comando General de Inspección y Organización
NACIONAL DE POLICIA

Mando General de la Policía
Comando General de Inspección y Organización
NACIONAL DE POLICIA

大きい方が内務省に納める手数料納付書。下の横長の紙切れは（気ニシナクテイイ）引換券。今回の期限は（イチオウ）4月9日。写真が鮮明でないのでチョッと読めませんが、去年第一回の申請時は3)の滞在許可（PERMISOS DE ESTANCIA ペルミソス・デ・エスタンシア）のところにチェックが入っていたんですが、今回は4)の居住許可（AUTORIZACIÓN DE RESIDENCIA アウトリサシオン・デ・レシデンシア）にチェックが入っていました。金額は去年は6.07ユーロ、今回は5.26ユーロです。諸事万端高くなりつつある中で安くなるものはなんでも大歓迎。

英語のパーミッション **permission** に相当するペルミソスと、オーソライゼーション **authorization** に相当するアウトリサシオンにどういう違いがあるのか、はっきりは分かりません。どちらにも許可という意味はありますが、強いて言えば後者のほうが格式ばった言い方でしょうか。「滞在」の許可と、「居住」の公認、を較べるとと何となく後者のほうが安定感があるし、連続性が感じられます。だからといって、複数年の許可だろう、というのは単にこちらの希望的観測に過ぎません。

このアト私達の最大関心事は何年の居住許可が出るかということですが、これが何回も言うように人によって言うことがマチマチで全くはつきりしません。しかし、上記のように滞在・居住と二つの言葉を使い分けているところをみると第一回目の申請と第二回目では明らかに何か区別をしているものと思われます。さて、あと何年居ていいというのか、あけてビックリ玉手箱です。

同じ日、2月24日の未明3時半頃、かすかな揺れを感じて眼がさめました。Nも目を覚ましていました。地震かナ、外を覗いて見ましたが特に変わったことはなさそうで静まり返っていました。夏場と違ってサスガに酔っ払いも少なくなる時間です。重いトラックでも通ったんだらう。とそのまま又寝てしまいました。

翌朝、モロッコの北海岸で深夜に大地震があったことをテレビが報じていました。私達が気づいた時間です。被害の大きかった場所は地中海を挟んで丁度私達の住んで居るところのトイメンぐらいです。スペインへ来て初めての体感地震でした。

日頃このあたりの新築工事を見て、これじゃ大地震でも来たらひとたまりもないなど思っていました。私達のような地震国の人間にはとても信じられないような安直な構造です。外見のミテクレだけは上等ですが、殆ど積み木細工のような建て方です。でもこれでチャンと法規は守られているのでしょう。それにしても恐ろしい構造です。テレビで見る限りモロッコの崩壊した建物や周りのものは殆どこの辺のと変わらないように見えます。もし、ここで地震があれば、人口密度から言ったらモロッコどころではない被害が出るでしょう。まず、助からんなどと思います。

今週明けからツバメが飛ぶのを見かけるようになりました。ドコから飛んできたんでしょうか。天気は下旬に入ってからずっとはつきりしません。内陸部では大荒れで洪水被害や道路の積雪・凍結のための交通事故も多発しています。去年のこの時期も雨が多かったことを思い出します。季節の変わり目10月下旬と2月下旬は鬼門です。テレビではポルトガルとの国境に近いイチゴの産地・ウエルバ付近の洪水の模様を流していましたが、折角美味しくなりだしたイチゴにも被害が出るような様子です。今日は、先週のアップロードからずっと続いていた悪天候も終り、久し振りの青空です。イチゴ、甘くなれ、安くなれ。来週は娘が遊びに来ます。***

* B a r R y N *

「サイゴンのうどん」の巻 2004年2月26日 更新

(或る日のコミーダ・その三)

酒飲みの常で長いモンが好きです。そば、うどん、は勿論ラーメン、スパゲッティ、ビーフン、はるさめ、何でもこい。特に汁に浮いていればなおヨシです。今日のお話はベトナム版うどんともいうべきフォー。これは米粉のきしめん、みたいなもの、生春巻きと並んでベトナム大衆的料理の決定版です。サイゴンではよく食べました。海上生活のオワりに近づいた頃、ベトナム人クルーと一緒に乗る機会がありました。

彼らと生活をともにして一番驚いた事は、その食生活です。

それまでの船はほとんどがフィリピン人クルーで、悩みの種は彼らの造る食事のオソマツさでした。フィリピン人コックは先ず例外なく、肉でも魚でもパサパサになるまで揚げる、トロトロになるまで煮る、カチカチになるまで焼くことしか知らないようです。野菜とはスープで煮込むもの、なんですね。生っぽいものはまず食べません。なんでもかんでも徹底的に火を通します。コックの朝起きぬけの仕事は先ず大鍋一杯の油を火にかけることです。まあ、しょうがないか、暑い所で食あたりしないためには

はそうするしかないんだな、そういう習慣なんだと思っていました。

ところが、ベトナム人クルーは全く違いました。ベトナムだって山岳地帯を除いてはほとんど全土が暑いはずです。サイゴンなんて、いつ行ったらオオ暑です。

ソレなのに、平気で生のものを食べます。野菜はいうに及ばず、魚や肉でさえ刺身風の食べ方まであるんですね。火の通し方も、サッと茹でるとか、軽く炙るとか、我々日本人になじみのあるやり方が多いんです。その後サイゴン定期航路の船に乗ってますますベトナムの食に惹かれたのです。最近、日本ではベトナム料理を食べさせる所が多くなりましたから、いくつかを既に経験したかたも多いと思います。生っぽい食べものの代表としては、先ず生春巻きがありますね。今日のコミーダは長物の代表フォー・ガー（鶏ダシ・ベトナム風・米粉うどん）です。ガーは鶏です。



なあーんだ、湯麺じゃないか。と思うかも知れませんが、さにあらず。やっぱり一番の違いは麺の味と歯ざわりでしょう。ラーメンにはない、硬い歯ざわり、コシ。アッサリ味のスープは取り立てていうほどのものではありません。本当は鶏がらをたっぷり使ってダシをとるのでしょうが、当バルのコミータは「簡単にできる」ことをムネとしますからそんな事には時間を使わず市販の「粉末鶏がらスープの素」で代用します。入れすぎなければこれで充分美味しい。

先ず、先週の「買物」で紹介したソーセージのどれか、まあ、「ドイツ風味」ぐらいが良いでしょう、これを小口切りします。深めのフライパンに少量のオリーブ油を落とし千切りのショウガを炒め、ソーセージを炒めます。このソーセージは余り油つきがありませんからテフロン鍋でも少しオリーブ油をたらしたほうが良いです。ニンニクのスライスを加えても良いですがソレはお好みで・・・、必須ではありません。ニンニクは風味が油に出たら捨てます。後はもう手当たり次第。例の浅漬け風塩もみサラダより、火を通す分材料を選びません。例えば、タマネギ・リーク(長ネギ)・白菜キャベツ・ニンジン・トマト(の果肉)・ズッキーニ・ピミエント(緑と赤)・セロリの葉っぱ・レタス・コリアンダー。これでショウガ・ニンニクを加えると何種類になりますか？ 青梗菜などもあればということナシ、とにかく野菜なら何でもコイです。



以上を硬いもの、火が通りにくいものから適当にぶち込んで炒めます。余り炒めすぎない事が肝心。野菜ですから基本的に生でも食べれます。馬は何でも生で食べます。風味の決め手は一緒に炒めるコリアンダーの軸を刻んだもの。サッと炒めたら鶏がらスープを加えて水を適量。隠し味程度に酒・醤油を少々。胡椒も一振り。ショウガがたまにととても辛い事があるので胡椒はショウガの辛味次第で加減します。

炒め始める前にあらかじめ別の深鍋にお湯を沸かしておきます、これは麺を茹でるため。フライパンの方に水が入ったところでフォーを茹で始めます。フォーの太さは色々ありますが、まあ5～6分茹でればOKでしょう。茹で上がったらざるに受けて水気を良く切ってから丼に分けます。その頃にはフライパンのほうもグツグツいってくるでしょう、フォーの上からスープをはり具の野菜を乗つけて、仕上げにコリアンダーの柔らかい葉を飾り、ライム半個を絞りかけて出来上がり。麺はフォーでなくても何でもOK。緑豆春雨なんか大のお勧めです。上の写真が茹でる前のフォーですがこ

れはタイ産。この辺の中華食材店にはなぜかタイ産のものしか置いていません。生春巻きの皮も同様です。タイとベトナムは共通点のある食べものが多いようです。この二つもそうだし、ナンプレーとニョクナムもよく似ています。この袋は400g入り、私達二人の三回分、1.35ユーロ。PHO・フォーという字見えますか？ところで、サイゴンという町は戦後ホー・チ・ミンという名前になっていますが、元からのサイゴンっ子はこの名前が嫌いなようで、今でもサイゴンと言っています。どんな偉い人の中でも個人の名前を元からの町の名前におっかぶせるのはいけませんね。サテ、ここで難問がひとつ。このフォーをベトナム料理たらしめるものはライムの爽やかな酸味とコリアンダーの香りです。ライムを嫌う人は稀でしょうが、問題はコリアンダー。これを避けていてはベトナムの味には肉迫できません。***

* 買い物百般 *

「果物屋、という果物屋」の巻 2004年2月26日 更新

スペイン語で果物屋というのはフルテリーア **frutería** ですが、私達の行き付けの果物屋は屋号を **La Fruteria** というんです。**La** は英語の **The** ですが、日本語には冠詞がありませんから日本語では果物屋が「果物屋」と名乗っていることになります。普通なら「藤沢フルーツ」とか「田中青果店」とかその家の苗字や場所の名前が付いていますよね。ここでも普通はそうなんです。例えばウチのすぐ前の例の二軒の八百屋のうち左の店は「ガモナル果物店」**Fruteria Gamonal** だし、右の店は「果物・太陽と蜂蜜」**Frutas Sol y Miel** というシャレた名前です。どちらも地名に関係があります。この行き付けの店、店の名前なんか全く知らないまま、飾り気のない実用一点張り、という店の感じと綺麗っぽくない代わりにヨソより一段安い値つけが気に入って果物は7~8割がたここで買っています。ウチのエントランスから百メートル余りですからとても便利です。私達が横浜に住んでいた頃、近くの市場に丁度同じムードの八百屋があり、其処へも良く通ったのですが、その店と店主の感じまで似ているので、その店の名前をそっくりイタダキで「オイカワ」と呼んでいました。

ところで、スペイン語勉強中のかたはお気づきでしょうか？ 冒頭の **frutería** という単語は (i) の上にアクセント記号がありますね。辞書ではこうなっています。しかし、屋号のネオンにはアクセント記号がありません。ネオン管の細工が難しいからではないと思います。何何屋という単語はこの (ria) で終わるのが実に多いんですが、アクセント記号が付いていたり、いなかったりどうもはっきりしません。例えば、**cafetería**(カフェテリーア=喫茶店)、**panadería**(パナデリーア=パン屋)、などいずれも辞書ではアクセント記号が付いていますが、店の看板などには付いてないことのほうが多いようです。スペインの人からのメールなんかでも記号が抜けていてアレっと思う事がありますが、彼らにとっては記号などなくても問題にならないのでしょうか。アクセント記号なんて、つけない言語が多いですからね。



この店、間口はこの通り狭いですが奥行きはかなりあって、所謂ウナギの寝床です。「オイカワ」さんもこんな風の様子で、この店を見た途端、何となく初めてきたような気がしませんでした。店主らしいアニさんをみてますますそう思いました。

この写真は2月の初旬に撮ったものですが、奥へ入る通路の右手、棚の上に0.95という表示が見えますね。これは二月に入って少し安くなり始めたイチゴ *fresa* (フレサ) 250g パックの値段。次に1.95というのが二つ続きますが普通の葡萄と青い葡萄のキロ当たりの値段。そして一番右が3キロで1.2ユーロの中粒のオレンジ。歩道にはみ出した下段のものは、通路際のオレンジが大粒で2キロ1.2E。その右の方に再び0.95Eのイチゴ・パック。店の中は奥へ行くほど野菜の比率が多くなり私達には用がなくなります。野菜は他の店でもっといいところがあるんです。



イチゴはいま毎週安くなりつつあります。これは今週になって買った2キロ入り一箱4.95ユーロのもの。二人の胃袋ではイタミが来ないうちに食べきるのがホネです。

これからまだまだ安くなり、去年の最安値はキロ当たり1.5Eぐらいでした。この箱もそうですが、この辺に出回るイチゴはそのほとんどが、ポルトガルとの国境に近い南岸のウエルバ **Huelva** 辺のもので、去年の今ごろはその辺りに大きな水害があったりした為かイチゴの味もイマイチで、せっかく値段は安いのに甘味が薄く、コンデンス・ミルクでも欲しいところでした。今年は今のところマズマズです。

ところで、この店は交通量の多い通りの横断歩道の正面にあるんですが、先日この店の反対側で信号待ちをしていて、真正面のこの店の看板にフト目が止まりました。

ソレまで店名など気にしてなかったのです。何しろ「オイカワ」ですからね。デ、よくよく見るとなんと **La Fruteria** 「果物屋」です。イヤー、「オイカワ」なんて言って申し訳なかった、そうか「果物屋」と言わなきゃいけなかったんだ。

これは簡単明瞭そのものズバリ、間違えようがない命名、モンクあるか、です。でもこれ、案外便利ではない名前なんです。なぜならこの辺にはフルテリーアがいっぱい。うちの前の二軒の店だって、私達は「右の八百屋」「左の八百屋」と呼んでいます。店名から言えば果物屋です。だからこの「果物屋」に行くときは、「果物屋」という果物屋、へ行って来るよ、と言わないとどこの果物屋か分からないじゃないですか。私達には「オイカワ」のほうがよっぽどトオリがいいんです。***

エクスカーション

「ピントールを探す」の巻 2004年2月26日 更新

(タイル探しの遠足・その一)

前回に引き続き地元の遠足です。エクスカーションの種はスペインにいる限り尽きる事はありませんが、財布には底があります。常に遠出し続けていたらアゴが干上がるので、近場への遠足も貴重です。前に、この辺の町の通りに貼り付けてあるタイル板のネーム・プレートの事をお話しましたね。その続編です。スペイン全土、どこへ行ってもそうなんだと思いますが、町の辻々には夫々の通りの名前を書いたタイルを貼り付けてあります。これが、良くみて歩くとナカナカ楽しい。歴史上の人物あり国名・地名、何か町に貢献のあった人の名前、作家、作曲家等等など。

今回はピントール **pintor** 画家です。ペンキ屋のこともピントールといいます。英語もそうですね、絵描きもペンキ職人もペインター **painter**。つくづく日本語は語彙の多い言語だなと思います。日本で画伯と塗装職人を混同することは考えられませんがスペイン語や英語ではどう区別するのでしょうか。

Rは図面を画く事は嫌いではありませんが、絵筆にはあまり縁がありません。Nは全くその逆のようです。マラガ市に去年暮れにピカソ美術館が開館し、はじめは物凄い混雑でしたが、そろそろホトボリも冷めたようなので、春の観光シーズン入りの前に行ってみようと前から話していました。先週のアップロードの前日、じゃ明日行こうといていたら、その夜Nがウチの中で足を捻ってしまい、急遽取りやめ。幸いNの足は大事にはならず、もう大体回復しました。

私達は冬の間なるべく手袋を持って歩いていました。寒いからと、手をポケットに入れられないようにするためです。なぜならここではチョッと異常なくらい手を骨折して吊っている人、膝を痛めたのか松葉杖をついている人、を大勢見かけるのです。だから転ぶのは避けられなくても、その場合せめて咄嗟に手をついて大事に至らないようにしようというわけ。それだけ用心していたのにウチの中で捻挫とはね。ヤレヤレ。



まずは、ご存知ピカソ、ですがどうも気になることがひとつあります。

広辞苑のピカソの項： スペインの画家、フランスに定住。(1881～1973))

リーダーズ英和： スペイン生まれのフランスの画家・彫刻家。(1881～1973)

ジーニアス英和： スペインの画家・彫刻家。(Pablo) (1881～1973)

これだけでとやかく言うのもおかしいかもしれませんが、この三つの辞書に共通しているのは生年と没年だけ、前二者はいずれもフランスに触れているし、特に研究社に

至っては「フランスの」画家とまで言っちゃっています。いいんでしょうか？

本当は「スペインに生まれて青年期以降主にフランス国内で制作活動を行った」とで

も言わなきゃいけないんじゃないでしょうか。国籍は変えたんでしょうか。

フランコ政権当時、ピカソに限らず多くの芸術家が軍事独裁を嫌って国外に去った事

について不完全な知識はありましたが、ピカソもその一人だったのでしょうか？

こっちへ来てから、チョッと以外に思った事はマラガはピカソ生誕の地のはずなのに

「ピカソの生家博物館」というのがあるだけで、展示品もオソマツです。空港ビルはパブロ・ルイス・ピカソ・ターミナルという名前がついてはいるものの、知らない人

は気づかずに過ぎてしまうだろうというくらいの表示が一箇所にあるだけです。

どうもマラガという町もピカソ自身もこの土地に生まれた事にあまり思い入れがなか

ったのではないか。そんな気がしてなりませんでした。まあしかし、とにかくピカソ

美術館は完成し、落成式は国王列席で行われテレビでも派手に報道されていました。



次はグンニャリ溶けてしまったような時計の絵が記憶に残るダリ。ダリに関してはほとんど何も知りません。シュールレアリズムというのは私達の生活感覚からはアマリに遠い所にあります。Nは面白いと思えるようですが、Rにはナンジャコリヤ。

右は「着衣のマハ」「裸のマハ」で有名なゴヤ。この絵はゴヤが自分の愛人を画いたのだとか、いやスポンサーの貴族の夫人を画いたのだとか、色々な伝聞又は風聞又は憶測があったようです。詳しいことは分かりませんが、最近その貴族の子孫がその噂をきっぱりと否定した、というようなテレビ報道がありました。作品が画かれてから

二百年近くなるはずなのに、今でもホットな話題たり得るとは・・・。

マハ **maja** というのはてっきり寝そべり美女の名前、固有名詞だと思い込んでいたのですが、これはそうではなくて、美女、粹な人、という意味の普通名詞なんですね。カディスへ行った時ゴヤの「最後の晚餐」を見ました。最後の晚餐と聞くと先ず思い出すのはレオナルド・ダ・ヴィンチのものです。ダ・ヴィンチのこの絵については、NHKの特集番組でその復元修理の様子を見たことがあります。横一列で全員の表情をはっきり見えるように画いたのはダ・ヴィンチが初めてで、画期的だったのだ、というようなことをその番組で言っていたと思います。

カディスのゴヤの絵はダ・ヴィンチより三百年くらい後に画かれたものである筈ですが全員が円座になっています。そして、面白いと思ったのは、多くの弟子たちが何となくデレッと半分寝そべったような感じで、なにやら「宴のあと」のような、二人や三人は酔いつぶれている奴もいそうな気配が感じられた事です。教会の壁画なんだから断じてそんな絵ではない筈で、泣き崩れているのかも知れません。見るほうの日常がつい出てしまうのでしょうか。イカン、イカン。



左はムリー(リ)ヨ、右はスルバラン。この辺になると私達にはなじみのない宗教画の世界です。スルバランの絵は見たことがあったかどうか、カディスの博物館で見たはずなんですけど、いま、手元にあるその写真をもっても思い出せません。見ても殆ど興味は湧かなかった、だから記憶にも残っていないのでしょう。

ムリー(リ)ヨの絵は、カディスの小さい教会で見ました。日本語の旅行案内では「無原罪のお宿り」と訳されている **Inmaculada Concepción** イ(ム)マクラダ・コンセプションという絵です。「無原罪のお宿り」ってナンダ? と思ってしまいますが、まあ処女懐胎という意味だと思います。科学的ではありませんが、宗教の世界、奇跡はつきもの、何でもありです。凡人には冗談キツイぜー、としか思えません。

ムリー(リ)ヨの同名の絵はマドリー(ド)のプラド美術館にもあり、写真で較べてみると構図はよく似ていますが細部は違います。又、同名と言いましたが、日本語の案内書に書いてある日本語訳「無原罪のお宿り」がおんなじであって、プラド美術館にあるものの原題は **Inmaculada de Soult** となっています。この **Soult** というのが何かどうしても分かりません。カディスのは祭壇壁画ですから現場で画いたはず。プラド美術館のは額入りで、どこかで画いたものを後に運び込んだはず。だから **Soult** はそのどこかの地名じゃなかろうかと勝手に考えていますが、どなたか絵に詳しい方教えてくださいませんか? リーダーズではスルト=ナポレオン麾下の元帥となっています。なお、ムリー(リ)ヨは1681年、同じくカディス市内の他の修道院で天井画を作成中に足場から転落して、その怪我が元でその翌年没したのだそうです。

当時、教会や大聖堂などに壁画や天井画を画くのは大変な名誉、且つ、後世に名を残せることは確実、ではあったでしょうが、命がけの作業でもあったんですね。



左のベラスケスの絵を、デジカメで撮ったようなというのは画家に対して甚だ失礼でしょうが、その位細密に書き込まれた絵はRのような絵心のない者には一番分かり易い。王家お抱えの宮廷画家だった彼の傑作の一つと言われる「ラス・メニーナス」という作品には、宮廷内の様子を描いている自分自身をも書き込んであります。自分の映画のどこかに必ず顔を出したヒッチコックはこれにヒントを得たのかも・・・。

右のグレコ **greco** は **griego**(グリエゴ)と同じギリシャ人という意味で、その通りクレタ島生まれのギリシャ人だったんですね。本名は別にあるのにギリシャ人と言われ続け、結果的にその名前が後世に残ってしまっていて、本人はどう思ったでしょう。

最初のピカソのプレートも含め周りが波模様になっているのが私達の町ベナルマデナのもので。今回は出て来ませんでした。よその町はよその町で夫々がいろんな意匠のタイルを使っています。色も大きさもいろいろ、カットの図柄も工夫を凝らしています。ピカソのとその他のプレートの違いにお気づきですか？ 勿論、ピカソのは画像サイズを大きくしているのですが、タイル一枚の実際のサイズは皆同じです。ピカソは15枚、その他は12枚です。この違いはナンでしょうか？ 私達が知る限り15枚のタイルを使っているのはピカソのプレートだけです。なにやらこの土地が遅ればせに特別にピカソに阿っているように見えるのは僻目でしょうか？ こういうものの見方はイカンかもしれませんが、そう思う人間がいることは厳然たる事実です。

何故同じ大きさにしないのか？ ここはマラガ市でもないのに・・・。

ピカソのプレート以外は全て図柄がパレットですが、パレットの色も、乗っている絵の具も微妙に変えてあります。ところで最後のグレコのパレットに注目。このパレットだけ親指をかける穴の位置が反対ですね。グレコは左利きだったのかな？***